

研修先大学（研修国）	ビクトリア大学（オーストラリア）
研修期間	2026年2月2日～3月15日（42日間）
参加学生数	本学園から3名 コース全体30名 （主な国籍：日本）

報 告 者 ①	女子学生
研修内容の概要	
2月2日に福岡を出発し、翌3日の昼頃にオーストラリアへ到着した。到着翌日は休みで、ホストファミリーに学校までの行き方などを教えてもらい、新しい生活の準備を整えた。その2日後にはオリエンテーションがあり、翌週の月曜日までは自由時間だったため、自分で計画を立てて観光や外出を楽しんだ。授業は大学側からのメールの連絡で決まった。クラスによって変動はあると思うが、私のクラスは月曜日から水曜日まで9時から11時、13時から15時の二部制で行われ、間に2時間の休憩があった。木曜日と金曜日は11時から13時、15時から17時まで授業があり、こちらも間に休憩時間が設けられていた。土日は基本的に自由時間で、友人と出かけたりホストファミリーと食事に行ったりと充実した時間を過ごした。学校には部活動のような課外活動はあまりなかったが、その分、自分で予定を立てて行動する機会が多かった。また、約6週間の留学期間中には、フリーフードやフリーアイスのイベントが5回ほどあり、大学側の定期的な催しも楽しむことができた。全体を通して、自分で考えて行動する力を養いながら、充実した大学生活を送ることができた留学経験となった。	
研修先の大学における研修の方法とそれへの評価	
研修先であるビクトリア大学では、曜日ごとに担当教員や授業内容が分かれており、効率よく英語力を伸ばすことができるカリキュラムが組まれていた。具体的には、月曜日から水曜日までは主にライティングを中心とした授業が行われ、文法や文章構成、アカデミックな表現について深く学ぶことができた。一方で、木曜日と金曜日は担当の先生が変わり、スピーキングやリスニングを中心とした授業が展開され、実際の会話力や聞き取る力を高める機会となっていた。また、毎週10個のボキャブラリーに関する確認テストが実施され、継続的に語彙力を身につける工夫がされていた。これらのテスト内容は最終週にまとめて評価される形式であり、日々の積み重ねが重要であると感じた。このように、分野ごとにバランスよく学べる授業構成と継続的な評価方法により、自分の英語力の向上を実感することができ、非常に有意義な研修であった。	
滞在方法及びそれへの評価	
ホストファミリーとの生活は、全体的に自由度が高く、とても過ごしやすい環境であった。日常生活では一緒に食事をする機会が多く、会話を通して英語に触れることができたため、実践的なコミュニケーション力を高める良い機会となった。また、週末にはスーパーや外食、動物園連れて行ってもらうこともあり、現地の文化や生活習慣を身近に感じることもできた。 生活上のルールはそれほど厳しくはなく、基本的なマナーを守ることが求められていた。例えば、シャワーは目安として10分程度とされていたが、多少、過ぎても特に注意されることはなく、柔軟に対応してもらえた。また、帰宅時間が遅くなる場合には事前に連絡を入れること、夜は22時頃に家族が就寝するため、それ以降は静かに過ごすことが主なルールであった。このように最低限のルールのみであったため、自分のペースを保ちながら生活することができた。 ホストファミリーはとても親切で、困ったときには優しく対応してくれたため、安心して生活することができた。全体として、適度な自由と配慮のある環境の中で過ごすことができ、異文化を理解するとともに自立した生活力を身につける良い経験となった。	
文化・教育・生活などの違いについて感じたこと	
今回の留学を通して、文化・教育・生活のさまざまな違いをより深く実感した。まず文化面では、オーストラリアの人々は非常にフレンドリーで、初対面でも気軽に話しかけてくれるなど、人との距離の近さが印象的であった。店員やバスの運転手とも自然に会話が生まれる場面が多く、日常の中でコミュニケーションを大切にする文化を感じた。また、自分の意見をはっきり伝えることが重視されて	

おり、遠慮や曖昧な表現が多い日本の文化とは大きく異なっていた。そのため、最初は自分の考えを英語で伝えることに戸惑いもあったが、徐々に積極的に発言する姿勢が身についていった。教育面では、主体性が強く求められる点が特に印象的であった。授業では先生が一方的に教えるのではなく、生徒同士で意見を交換したり、自分の考えを発表したりする機会が多く設けられていた。また、ライティング、スピーキング、リスニングといった分野ごとに授業が分かれており、それぞれに特化した学習ができるため、効率よく英語力を伸ばせる環境が整っていた。さらに、毎週のボキャブラリーテストや最終テストを通して、日々の学習の積み重ねが重要であることを実感した。生活面では、ホストファミリーとの暮らしを通して、日本よりも自由度が高く、個人の時間を尊重する文化があると感じた。細かいルールは少ないものの、帰宅が遅くなる際には必ず連絡することや、夜は静かに過ごすといった基本的なマナーはしっかり守る必要があった。また、自分のことは自分で管理するという意識が求められ、時間の使い方や行動計画を自分で考える力が身についた。このように異なる環境で生活する中で、多様な価値観に触れることができ、自分自身の視野を広げる非常に貴重な経験となった。

現地での生活費について

◆ 現地の物価は日本と比べると（枠内に該当する数字を記入）：

5：かなり高い 4：高い 3：同じくらい 2：安い 1：かなり安い

食料品	4	外食費	5	消耗品	3	洋服類	3	交通費	3	遊興費	4
-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---

◆ 現地で使った生活費等のおおよそな金額（単位：円）：

食費（外食を含む）	約 8 万	消耗品	0 万	交通費	3 万	洋服類	3 万
遊興費	約 3 万	お土産	3 万	その他：			2 万
合計							22 万

◆ 上記②の費用について（該当内容に○をつけてください）

○	無駄のない使い方だったので、適切な金額だった。	左記を選んだ理由を、下欄に具体的に教えてください。
	反省すべき部分があった。	
理由：無駄のない使い方ができ、授業や生活の中で多くの学びや経験を得ることができたため、全体として適切な金額であったと感じた。		

◆ 費用について後輩へのアドバイス：

費用については、事前にしっかりと内訳を確認し、自分が何にどれくらいお金を使うのかを把握しておくことが大切である。授業料やホームステイ費だけでなく、現地での食費や交通費、遊びに使うお金なども想定して余裕を持った予算を組むべきである。また、自由時間が多い分、その時間の過ごし方によって出費が大きく変わるため、計画的にお金を使う意識が必要である。無駄遣いを避けつつ、自分にとって価値のある経験にはしっかりお金を使うことで、より充実した留学生活を送ることができる。

研修成果（研修を通して得たこと）

◆ 研修参加の動機：

異なる文化や価値観に触れる中で、自ら考え主体的に行動する力を身につけたかったから。また、この経験を通して、一過性のものにせず、将来に生かせると考え、研修に参加した。研修を通じて、実践的なスキルを身につけ、将来的により高い価値を提供できる人材へと成長したいと考えているから。

◆ 参加前の目標：

オーストラリアでの留学経験を通して培った主体性や柔軟な思考力、社会に生かせるレベルまで高めることを目標としていた。具体的には、日常会話や接客業で必要なスキルを習得するとともに、周囲と積極的に関わりながら自ら学びを深め、主体的に行動できる力をさらに伸ばすことを目指していた。また、研修先の友人たちと切磋琢磨しながら、自身の課題を明確にし、成長につながることも重要な目標として取り組んだ。

◆ 設定した目標のために渡航前や現地で努力したこと：

現地では受け身にならず、自ら積極的に行動することを意識して取り組んだ。授業や大学に催し物の中でわからないことがあるときはそのままにせず、自分から質問や発言を行い、理解を深めるように努めた。また、多国籍の参加者と積極手にコミュニケーションをとり、異なる価値観に触れることで視野を広げるとともに、自分の考えを発信する力を身につけた。さらに、日常生活においても新しい環境に臆せず挑戦し続けることで、主体性と行動力を高めることができた。これらの取り組みによって、実践的なスキルと柔軟な対応力を身に着けることができたと感じている。

◆ 研修成果：研修参加を通して何が変わったかを具体的に教えてください。

例えば、語学力、価値観、将来の目標、日本や家族に対する思いの変化、自分への再認識、等々。

研修に参加したことで、最も大きく変化したのは自分自身の価値観と行動力だ。オーストラリアでの生活や多国籍の人々との関わりを通して、これまで当たり前だと思っていた考え方が必ずしも正解ではないことに気づき、多様な価値観を受け入れる柔軟性が身についた。また、言語や文化の違いがある環境の中でも、自ら積極的に行動しなければ何も得られないという実感から、主体的に動く力が大きく向上した。さらに、日本の恵まれた環境や家族の支えの大きさを改めて認識し、感謝の気持ちが一層強くなった。これらの経験を通して、自身の強みや課題を再認識し、将来に対する目標意識もより明確になった。

◆ 自己啓発：研修参加を通して得た経験や知識を今後どのように活かしていくかを具体的に述べてください。

研修を通して得た主体性や異文化理解、柔軟な思考力を、今後の学業や仕事に積極的に活かしていきたいと考えている。具体的には、どのような環境においても受け身になるのではなく、自ら課題を見つけて行動する姿勢を大切にし、継続的に自己成長を図っていく。また、多様な価値観を理解し尊重する力を活かし、周囲と円滑なコミュニケーションを取りながら信頼関係を築いていきたいと考えている。将来的には、相手の立場に立って物事を考え、最適な提案ができる人材となることを目標に、今回の経験を土台としてさらに自己研鑽に励んでいきたいと考える。

後輩へのアドバイス（研修全体）

研修に参加する後輩には、受け身にならず自ら積極的に行動することを大切にしてほしいです。現地では言語や文化の違いに戸惑うこともありますが、自分から話しかけたり挑戦したりすることで得られる経験の質は大きく変わります。また、失敗を恐れずに行動することが成長につながるため、完璧を求めすぎずまずは一歩踏み出すことが重要だと思います。さらに、日本では当たり前と感じていることも海外では異なる場合が多いため、固定観念にとらわれず柔軟な姿勢で物事を受け入れることを意識してほしいです。この研修は、自分自身を大きく成長させる貴重な機会なので、一日一日を大切にしながら多くのことを吸収してほしいと思います。

次年度以降さらに充実した研修にするための提案

研修をより充実したものにするためには、事前・事中・事後のサポートを強化することが重要であると感じました。まず事前段階では、現地での生活や文化、簡単な英会話に関するオリエンテーションを充実させることで、不安を軽減し、より主体的に行動できる環境を整えることができると考えます。次に研修中においては、参加者同士や現地の方々と積極的に交流できる機会をさらに増やすことが有効だと思います。例えば、グループワークやディスカッションの機会を設けることで、実践的なコミュニケーション力や課題解決力の向上につながると考えます。さらに事後においては、研修で得た学びを振り返り、共有する機会を設けることで、経験を一過性のものにせず、今後の成長に活かすことができると感じました。

これらの取り組みにより、参加者一人ひとりがより主体的に学び、成長できる研修になると考えます。

報 告 者 ②	男子学生																									
研修内容の概要 基本的に文法、リスニング、リーディング、スピーキングの四つの分野で授業を受けた。月曜日から木曜日まではスピーキング以外の分野を学び、金曜日だけ担任とは別の教師が来てスピーキングの授業をした。これを4週間繰り返し5週目はリーディング、リスニング、文法、スピーキングのテストが計3日に分けて行われた。課外活動としては初日にオリエンテーションでソーセージホットドッグを食べとてもおいしかった。また、中国の正月の日にはみんなで折り紙を作ったり、集まったりした。(自分は友達がいなかったのもそこまでは楽しめなかった)。また終盤の方でクラスのみんなと担任と遠足みたいなことを行いロイヤルボタニックガーデンというものすごく広大な公園にいった。そこの班活動がとても楽しかった。																										
研修先の大学における研修の方法とそれへの評価 クラスの担任はとてもやさしく明るくわかりやすく教えてくれた。担任の英語の発音はとても聞きやすく(訛りや癖がない)自分は担任の話している英語だけは速い段階から聞き取ることができた。ほかの先生は聞き取りにくい人や、愛想が悪いひともいた。担任は私たちクラスメートが授業を理解しているか、楽しんでいるかを逐次確認しながら授業を進めていた。具体例を挙げると、みんなが疲れている雰囲気を感じると予定していた授業を変えてゲーム要素交じりの授業にしてくれたり、授業の要素ごとに一回一回ちゃんと理解できたか質問をしていた。私はこの質問のおかげでわからないことを気軽に質問できた。私が理解できるまでなぜこういう答えになるか説明してくれた。本当にこの人が担任で良かったと思える先生だった(名前はトリストアン)																										
滞在方法及びそれへの評価 私はホームステイでメルボルンに滞在した。家庭にオーストラリア人のホストファザーと日本人のホストマザーと娘が一人という家族構成だった。ホストマザーが日本人だったのでメルボルンに初めて行った日などは本当に英語がわからなくて助かった。娘が本当にかわいくて元気で癒された。ご飯は、朝は家のものを好きに食べてというスタイルで夜は家族みんなでそろってご飯を食べるという形だった。シャワーは特に制限などはなく、好きに浴びてという感じだった。私がメルボルンについてから1週間が経った頃、ホストマザーと娘が日本に3週間帰ってしまいそこからの生活は少し大変だった。飯もあまりおいしくないし、会話がままならないので生活が大変に感じた。しかしそれも英語を学ぶための良い練習だと思って乗り切った。																										
文化・教育・生活などの違いについて感じたこと まず食生活の違いで米があまり出ない、出たとしても、日本の米と比べおいしくないのもそこが日本人からしたら辛いと感じるかもしれない(基本パンやパスタなどの小麦粉食)次に物価の違いについてだがメルボルンは基本日本の2, 3倍は高いと思う。ただそこまで日本と変わらない部分もある。ものによるという感じ。しかし給料も日本より格段に高い(アルバイトで時給 3000~5000 円)ので、メルボルンで働きながら暮らすとしたそこまで高いとは思わないと思う。次に私が一番いいなと思った文化だ。それはお会計の時や注文の時に気分が上がる一言を絶対に添える文化だ。例えば「君の服とてもいいね」や私が実際に言われたのは、お会計の時に紙幣を出したらそれを見て beautiful と言われた。お会計が終わった後は必ず、夕方前だったら「have a good day」夕方後だったら「have a Good night」と店員がいい、言われた方が「you too」と言う。これが当たり前のように行われる。言われた方は絶対悪い気はしないし、気分が少し上がる。日本もこの文化を取り入れたら、もっと全体的に雰囲気が明るくなるのではないかと思った。																										
現地ででの生活費について ◆ <u>現地の物価は日本と比べると(枠内に該当する数字を記入):</u> <table border="1"> <tr> <td>5: かなり高い</td> <td>4: 高い</td> <td>3: 同じくらい</td> <td>2: 安い</td> <td>1: かなり安い</td> </tr> <tr> <td>食料品</td> <td>3</td> <td>外食費</td> <td>5</td> <td>消耗品</td> <td>3</td> <td>洋服類</td> <td>4</td> <td>交通費</td> <td>4</td> <td>遊興費</td> <td>4</td> </tr> </table> ◆ <u>現地で使った生活費等のおおよそな金額(単位: 円):</u> <table border="1"> <tr> <td>食費(外食を含む)</td> <td>10 万</td> <td>消耗品</td> <td>万</td> <td>交通費</td> <td>万</td> <td>洋服類</td> <td>0 万</td> </tr> </table>		5: かなり高い	4: 高い	3: 同じくらい	2: 安い	1: かなり安い	食料品	3	外食費	5	消耗品	3	洋服類	4	交通費	4	遊興費	4	食費(外食を含む)	10 万	消耗品	万	交通費	万	洋服類	0 万
5: かなり高い	4: 高い	3: 同じくらい	2: 安い	1: かなり安い																						
食料品	3	外食費	5	消耗品	3	洋服類	4	交通費	4	遊興費	4															
食費(外食を含む)	10 万	消耗品	万	交通費	万	洋服類	0 万																			

遊興費	6 万	お土産	1.5 万	その他：	万
合計 19.5					万

◆ 上記②の費用について（該当内容に○をつけてください）

○	無駄のない使い方だったので、適切な金額だった。	左記を選んだ理由を、下欄に具体的に教えてください。
	反省すべき部分があった。	
理由:節約できるところはして思い切って使うところは使うとメリハリをつけて生活ができたから		

◆ 費用について後輩へのアドバイス：

正直折角メルボルンまでいくなら節約しないで思いっきり使った方がいいと思う。そのために日本での生活を節約したり、アルバイトを頑張った方がいいと思う。

研修成果（研修を通して得たこと）

◆ 研修参加の動機：

英語を話せるようになりたいと思いと人生経験のため

◆ 参加前の目標：

英語を話せるようになる。

◆ 設定した目標のために渡航前や現地で努力したこと：

渡航前に英語の勉強をした。現地でなるべく現地の人と会話を増やす。

◆ 研修成果：研修参加を通して何が変わったかを具体的に教えてください。

例えば、語学力、価値観、将来の目標、日本や家族に対する思いの変化、自分への再認識、等々。

渡航前と比べ圧倒的に英語を聞き取れるようになった、話せるようになった。

◆ 自己啓発：研修参加を通して得た経験や知識を今後どのように活かしていくかを具体的に述べてください。

英語は話す習慣がないと絶対に喋れるようにならないので、とにかく英語を話す習慣を日常的につける。例えば英会話スクールに通う、ネイティブスピーカーと友達になりコミュニティを増やすなど。自分は営業の仕事をするので顧客の対象に外国人を入れようと考えている。それに加え、将来外国でビジネスを展開したいと考えているのでそこで英語が話せないと話にならないので英語をネイティブスピーカー並みに話せるようになりそこで活かしたい。

後輩へのアドバイス（研修全体）

渡航前にある程度英語が話せるようになってないと最初の方はつまらないと感じてしまうので、渡航前に必ず英語を話せるように勉強しておいた方がいいと思う。理想は外国人と少しの会話ができる程度。

次年度以降さらに充実した研修にするための提案

正直な話、現地で気を付けることとか、様々な研修があったがそんなことより英会話の練習の授業を増やした方がいいと思う。英語が少しくらい話せないと本当に困るから。

研修内容の概要

私は、ビクトリア大学にて2月から約1ヶ月半英語研修に参加した。授業が始まる前には、オリエンテーションがあったが、自分が体調不良の為参加できなくオリエンテーションの流れは把握できなかった。授業は学力のあったクラスに配属され月曜日～金曜日の週5で授業がある、朝9時から2時間授業、2時間お昼休憩、午後から2時間授業で一日の学校が終了。学習内容については、私の学力が低いので一番下のクラスだった。基礎や過去形、文章の作り方、単語から短い文を読む練習などの授業を行った。途中に5分休憩など十分な休憩時間を設けられた為集中力を保ちながら取り組むことができた。課外活動では一度だけ授業中に外に行きフィールドワークを行いました。最後の授業では、全クラス参加でディスカッションのようにグループを組み与えられたミッションをこなすという授業もありました。

研修先の大学における研修の方法とそれへの評価

授業の進め方としては月曜日～水曜日は Writing, reading などを中心に勉強し、木曜日と金曜日は Speaking や Listening を中心に授業を行いました。宿題などは、週1で単語10個を覚えて次の授業に小テストとして出されたり、授業中にこの問題を解いてきてねと急に出されることもあった。そんな宿題の量も多くなかったのもいつもその日に終わらせることが多かった。月曜日～水曜日の担当の先生、木曜日～金曜日の担当の先生と、週に2人の先生らが交代で指導してくれた。それぞれ机に座りながら教えてくれたり、携帯でミニゲームをしながら楽しく授業することがあった。解いているときに間違っていた時には、すぐに指摘してくれたり、わからないところがあると教えてくれたり、ゆっくりと話してくれてとても生徒に寄り添った授業ができていたと思う。

滞在方法及びそれへの評価

私のホームステイ先では特にルールはなかった。自分の部屋にシャワー室とトイレがついており風呂も好きな時間に入ることができた。夕飯の時間はいつもバラバラだった。できたらいつも携帯のメッセージで教えてくれた。朝ごはんは最初作ってくれていたけど二月の中旬ぐらいからは自分で用意していた。冷蔵庫や棚にある食べ物は好きに作ったり、食べていいと言ってくれたのでそうしていた。私のホームステイ先の母親が友達が多くほぼ毎日誰かが訪問して来たり、電話をしていてあまり話すことが他の人より少なかったほうかなと思った。娘さんも部屋に閉じこもったり、一緒にの時間に中々夕飯を食べる機会が少なかった。しかし、とてもやさしい人たちでもあった。洗濯物も溜まったらもって行って回してくれた。

文化・教育・生活などの違いについて感じたこと

日本の授業と違ってオーストラリアは一人ひとり理解しているかの確認をしてくれるし、一人ひとり Speaking をさせてくれるし間違ったところは指摘してくれます。人数が少ないってこともあるけど、全員参加型の授業なので集中しやすかった。

海外の人達はとてもフレンドリーでゆるい。日本人のような硬さはなかった。着たい服を着てやりたいようにやる。その生活の雰囲気がとても好きだった。私自身体系をきにして着たい服を着れなかったけどオーストラリアに行った時は気にせず着れて良かった。主食がほぼ肉。私が住んでいたホームステイ先は、夕飯に、肉かハンバーガー、ピザなどジャンクフード系が多かった。野菜やご飯もたまには出てきてはいた。少しお米は硬かったりパラパラだったりして日本食が恋しくなったこともあった。お店が閉まるのが早い。その分朝の開店が早い。電車やバスなど時間通りに来ないことも多かったり急に路線変更することもある。

現地で生活費について

◆ 現地の物価は日本と比べると（枠内に該当する数字を記入）：

5：かなり高い 4：高い 3：同じくらい 2：安い 1：かなり安い

食料品	4	外食費	4	消耗品	4	洋服類	3	交通費	3	遊興費	3
-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---

◆ 現地で使った生活費等のおおよそな金額（単位：円）：

食費（外食を含む）	6 ? 万	消耗品	1 万	交通費	1. 6 万	洋服類	0 万
-----------	-------	-----	-----	-----	--------	-----	-----

遊興費	2 万	お土産	6 万	その他：	？ 万
合計					19 万

◆ 上記②の費用について（該当内容に○をつけてください）

	無駄のない使い方だったので、適切な金額だった。	左記を選んだ理由を、下欄に具体的に教えてください。
○	反省すべき部分があった。	
理由：節約できる所があったと思う。お昼ご飯をホームステイ先で準備できる時が多々あったがしなかった。口に合わないお菓子などを買ってしまった。		

◆ 費用について後輩へのアドバイス：

本当に買って損はないか考えて使うこと。お土産買う人数を決めて適切に買うこと。

研修成果（研修を通して得たこと）

◆ 研修参加の動機：

大学生活楽しみたい、大きい挑戦もしたいと思い今回の研修に参加した。

◆ 参加前の目標：

少しでも話せるようになりたい。この経験を後悔しないように過ごせるようにしたい。

◆ 設定した目標のために渡航前や現地で努力したこと：

渡航する前相手と会話できるように勉強した。

日常生活で使える言葉を少しでも覚えられるように何回も使い覚えさせた。授業についていけるよう頑張った。

◆ 研修成果：研修参加を通して何が変わったかを具体的に教えてください。

例えば、語学力、価値観、将来の目標、日本や家族に対する思いの変化、自分への再認識、等々。

語学力は、1ヶ月半じゃ難しいと聞いていたけど確かに会話をするのは難しかった。でも相手がいることが全部とは言えないけど Speaking 力は上がったと思う。英語を話したい、勉強したいという気持ちが大きくなった。日本食が恋しくなったときもあり、オーストラリアに行ったことで日本の良さにもきずくことができた。

◆ 自己啓発：研修参加を通して得た経験や知識を今後どのように活かしていくかを具体的に述べてください。

日本とオーストラリアでは、価値観が全く違うからこそ沢山オーストラリアで挑戦していこうと思い、一人でツアーに参加したり体系など気にして日本どとなかなか着ないような服など来たり、知らない人に話しかけたりなど積極性や好奇心が成長した。それに将来まだまだいろいろな国にいきたいと思った。今後も英語の勉強を続けていつかいろいろな人たちと交流できるぐらい英語を話せるようになりたい。また、海外の人達と交流し海外の文化や生活、雰囲気を知って世界中を知りたい。

後輩へのアドバイス（研修全体）

研修参加を通して、勉強しないで渡航するのはダメ。私自身してないわけではないが、もっと行く前に勉強するべきだと思った。授業で話されることが理解できずに日本人に助けを求めることが多かったり、翻訳を使うことが多々あったため授業に遅れをとることもあった。

現金で払うこともできるがほぼクレジットカードで支払いできる。現金に変えなくても生活はできた。

次年度以降さらに充実した研修にするための提案

行ったことある人から話を聞く。

現地での学習・活動・生活の様子

学校・ホームステイ



↑説明：最後の授業はお菓子やピザと一緒に



↑説明：㊦卒業



↑説明：ホストマザーの夕飯手作りの1つ。
とても美味しかった。



↑説明：家の近くのカフェ、レストラン、広
場めちゃくちゃきれいな場所だった。

町中の様子



↑説明：ビクトリア国立美術館



↑説明：State Library Victoria



↑説明：パプフィンビリー鉄道



↑説明：街を歩いていたら多き建物ばかり